

自然教育園の鳥類の季節変動について

武 藤 幹 生*

Seasonal Variation of the Birds in the Institute for Nature Study

Mikio Mutoh *

1. はじめに・調査方法

今回の調査によって自然教育園では現在まで外来種も含め129種の鳥類が確認された。この調査期間では、すべての記録を合わせると88種の鳥類が確認されているが、本報告では自然教育園内の鳥類の季節的変動を調べるため、個体数を記録したロードセンサスの記録を分析した。ロードセンサスは日の出から約30分後に開始し、1998年8月から2000年4月にかけて計65回行った。分析には月ごとの最大個体数を使用した。ロードセンサスで記録されたのは計53種であり、ここではその53種について扱うことにする。

月ごとの出現種数については1999年1月から2000年12月までの記録を使用した。

2. 調査結果

月ごとの出現種数(図1, 図2)は、毎年夏に少なく冬に多い傾向があり、渡り鳥の移動がある春と秋の中でも、さえずりとして声が確認しやすい4~5月は種数が特に増加する。これらの渡り鳥は、園内に1, 2日滞在するのみで、すぐに渡去する。

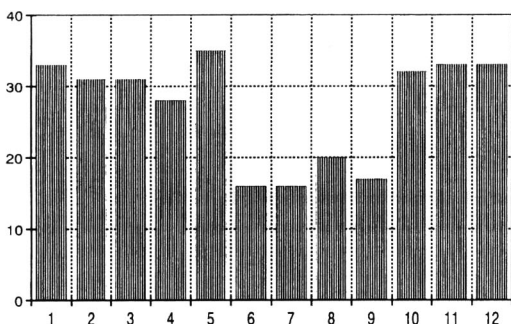


図1 1999年の月別出現種数

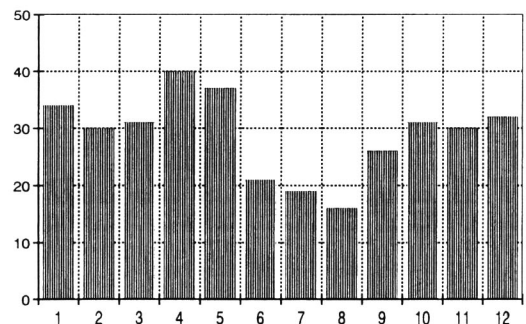


図2 2000年の月別出現種数

個体数も、留鳥であっても冬多く夏少ない傾向を示すものが多く、ヒヨドリなどはその代表例である。留鳥としてはほかにシジュウカラやハシブトガラスが挙げられる。夏鳥としてはカイツブリやツバメのみで、カイツブリは年によって繁殖する。冬鳥はツグミ類やホオジロ類などが多く見られる。

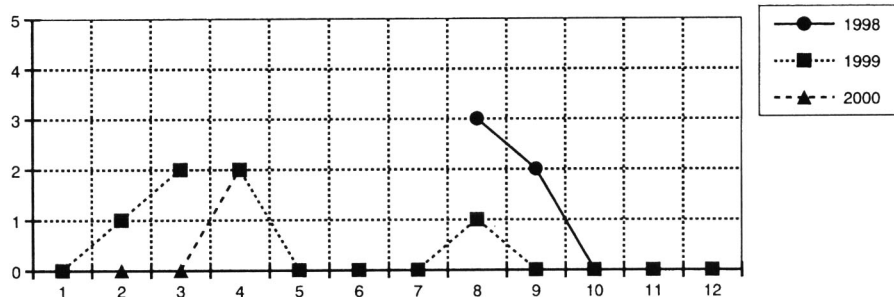
* 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum

春と秋だけに出現する旅鳥は、ヒタキ類を中心に13種にも及んだ。

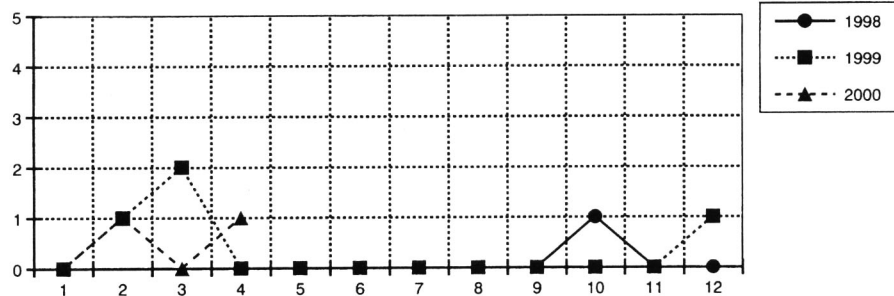
以下に種ごとの月別最大個体数を示す。縦軸が個体数、横軸が月である。

3. 種別月別最大個体数

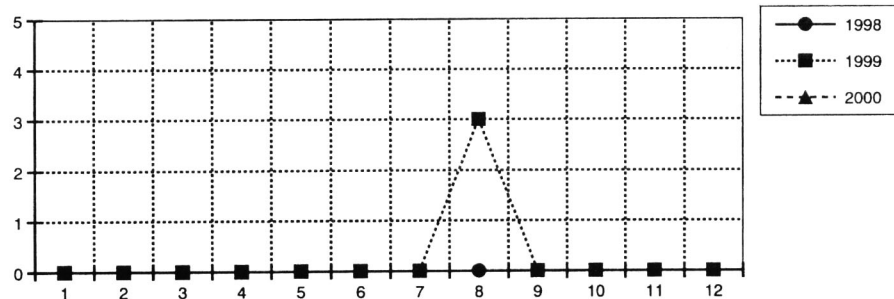
1 カイツブリ *Podiceps ruficollis* (Pallas)



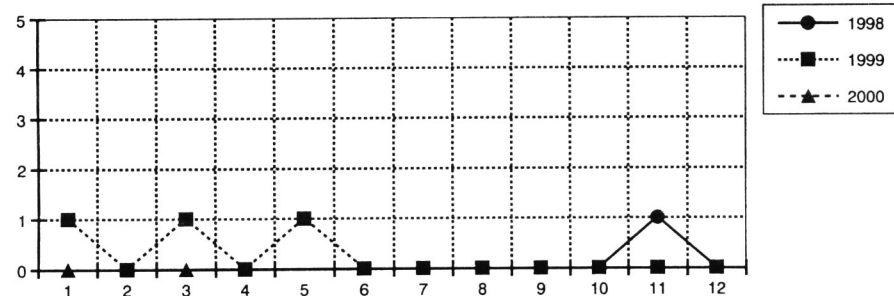
2 カワウ *Phalacrocorax carbo* (Linnaeus)



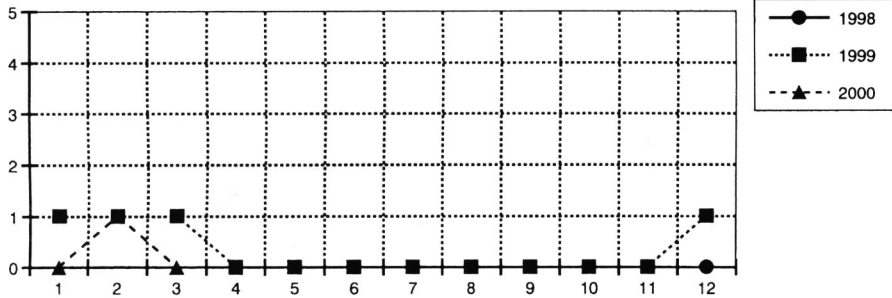
3 ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* (Linnaeus)



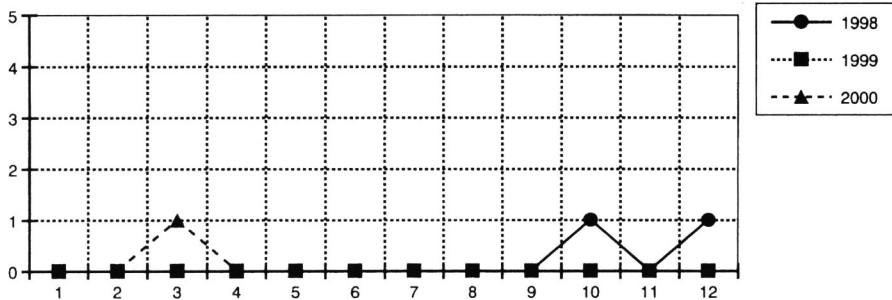
4 ダイサギ *Egretta alba* (Linnaeus)



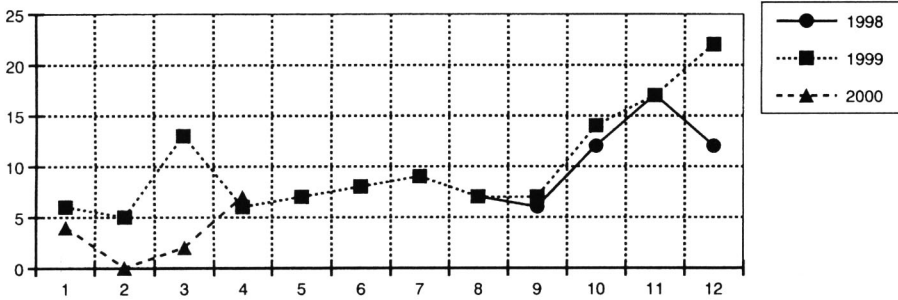
5 コサギ *Egretta garzetta* (Linnaeus)



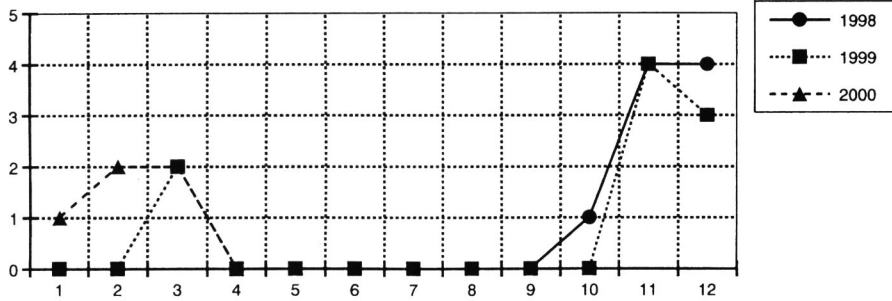
6 アオサギ *Ardea cinerea* Linnaeus



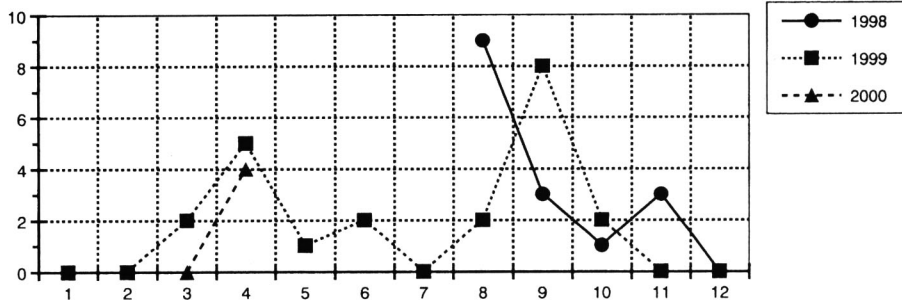
7 オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus)



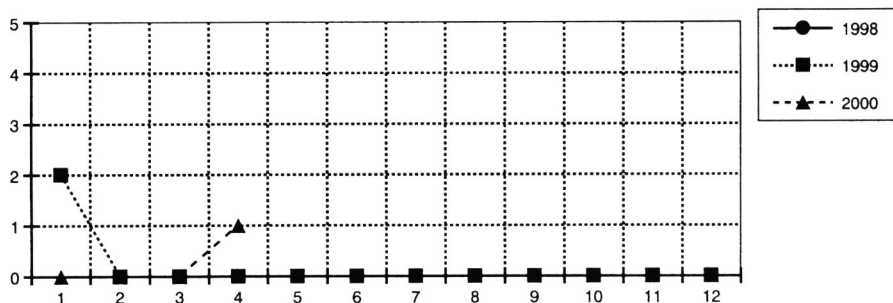
8 マガモ *Anas platyrhynchos* Linnaeus



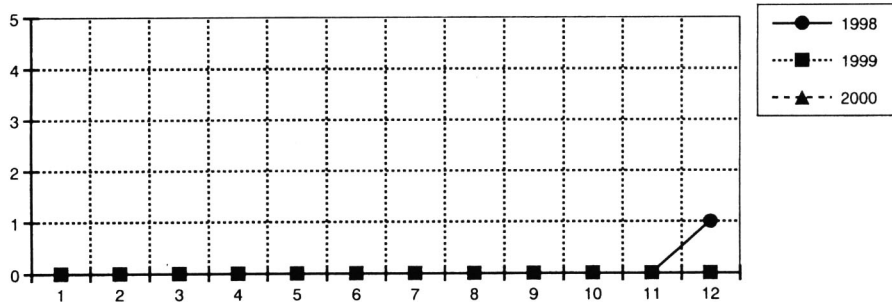
9 カルガモ *Anas poecilorhyncha* Forster



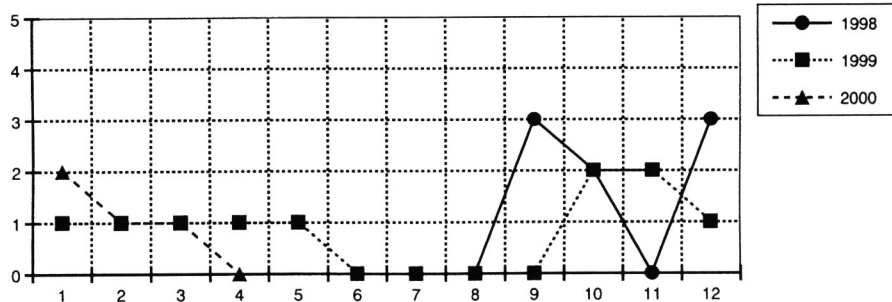
10 コガモ *Anas crecca* Linnaeus



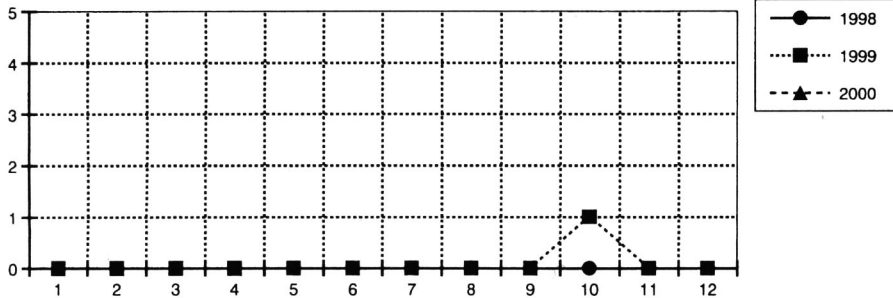
11 キンクロハジロ *Aythya fuligula* (Linnaeus)



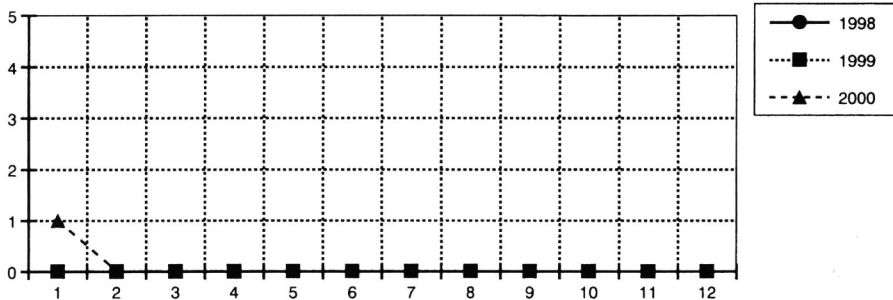
12 オオタカ *Accipiter gentilis* (Linnaeus)



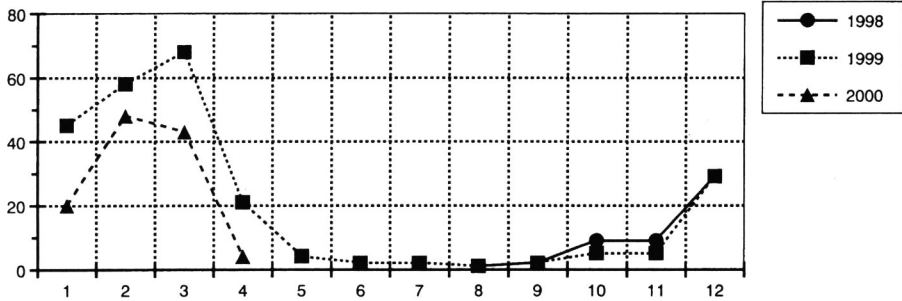
13 ツミ *Accipiter gularis* (Temminck & Schlegel)



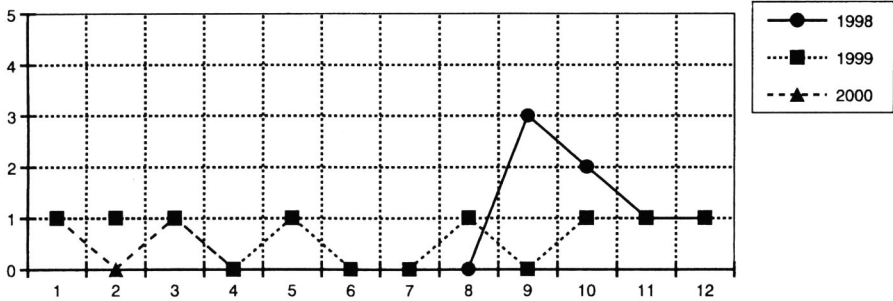
14 ユリカモメ *Larus ridibundus* Linnaeus



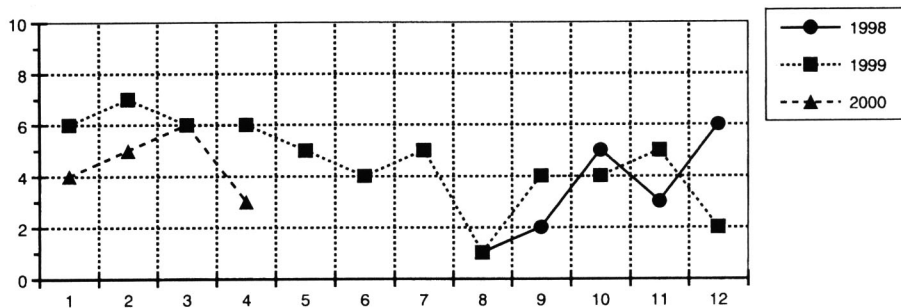
15 キジバト *Streptopelia orientalis* (Latham)



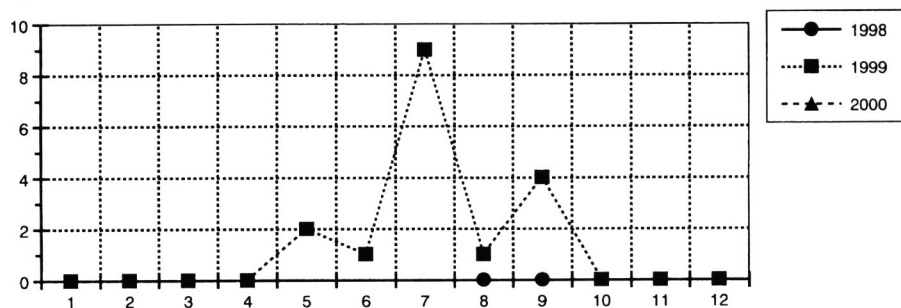
16 カワセミ *Alcedo atthis* (Linnaeus)



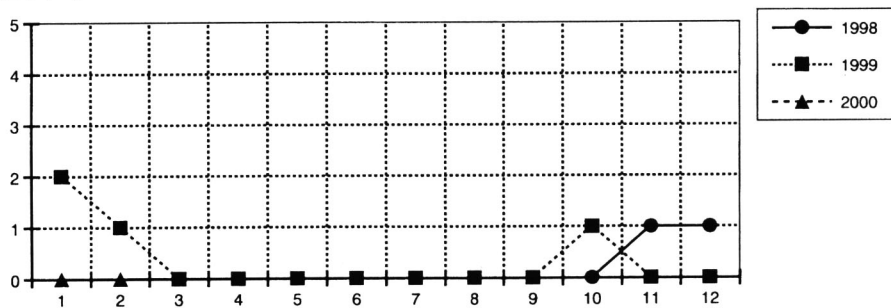
17 コゲラ *Dendrocopos kizuki* (Temminck)



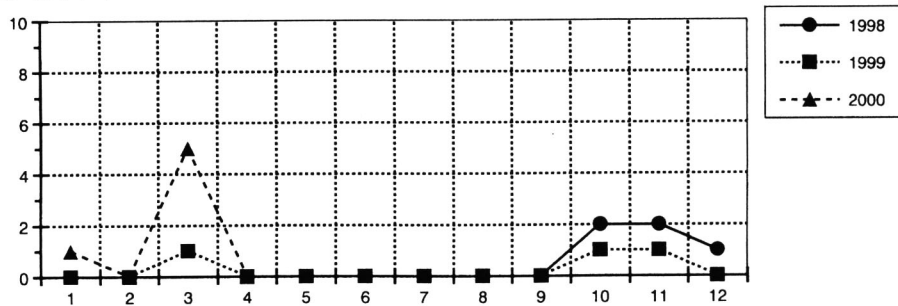
18 ツバメ *Hirundo rustica* Linnaeus



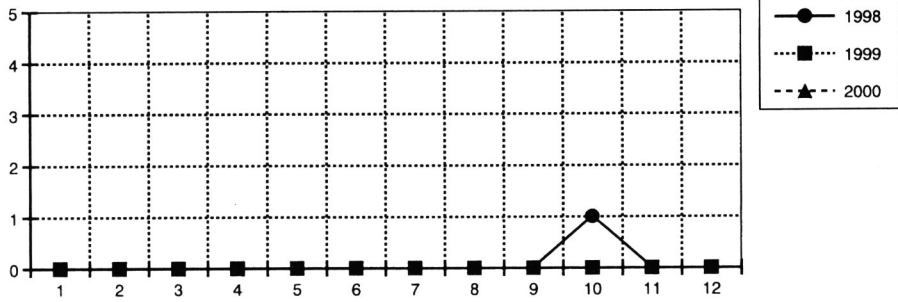
19 キセキレイ *Motacilla cinerea* Tunstall



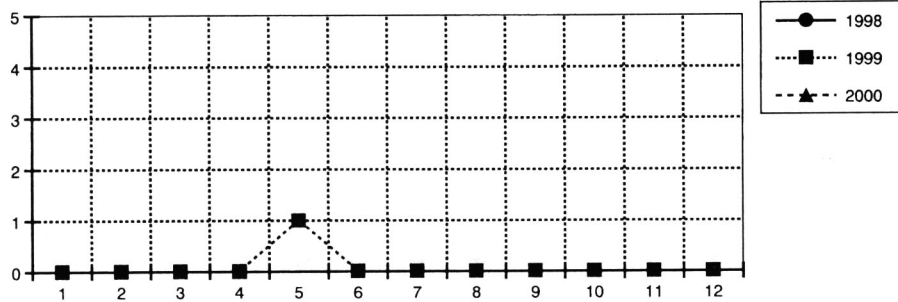
20 ハクセキレイ *Motacilla alba* Linnaeus



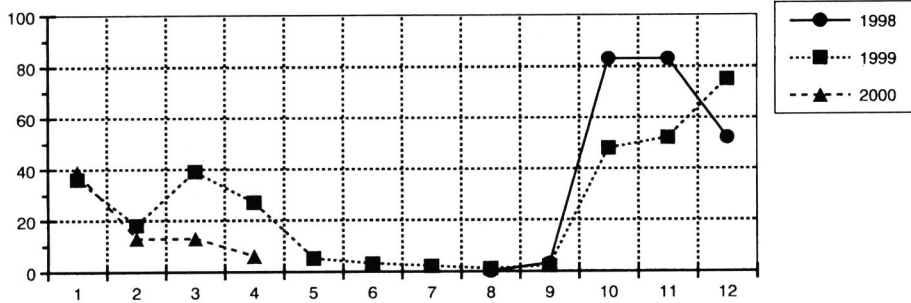
21 ピンズイ *Anthus hodgsoni* Richmond



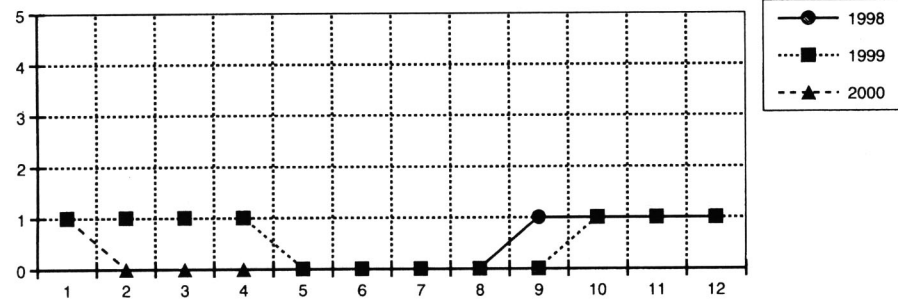
22 サンショウクイ *Pericrocotus divaricatus* (Raffles)



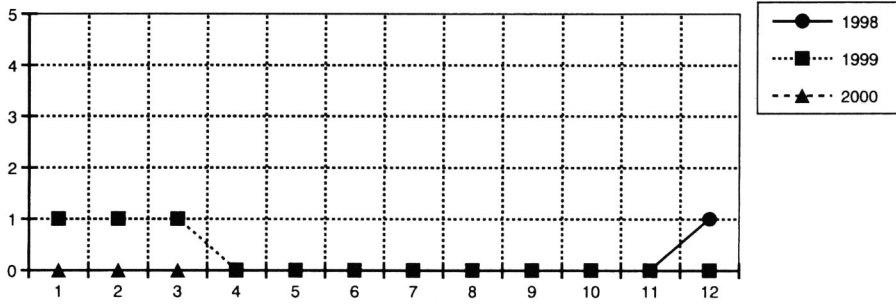
23 ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis* (Temminck)



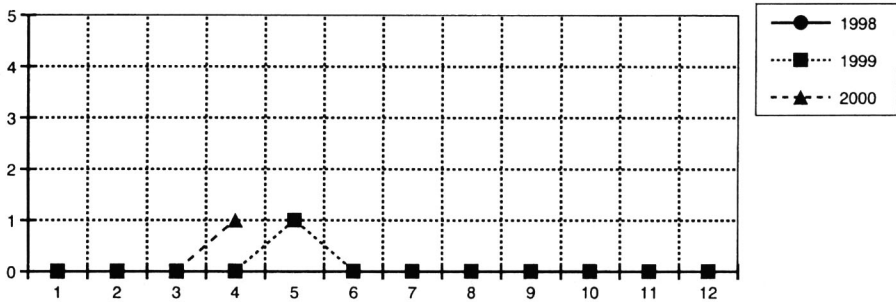
24 モズ *Lanius bucephalus* Temminck & Schlegel



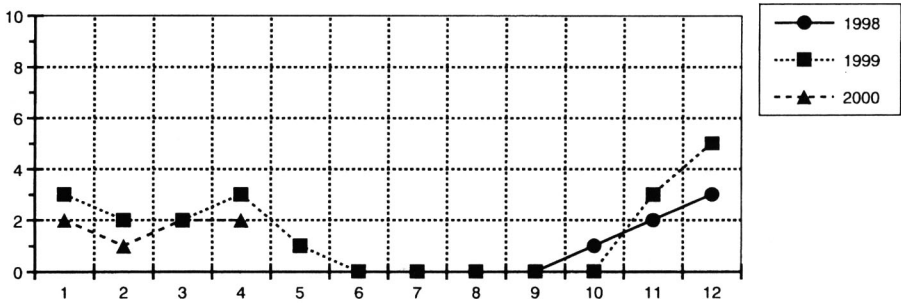
25 ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* (Pallas)



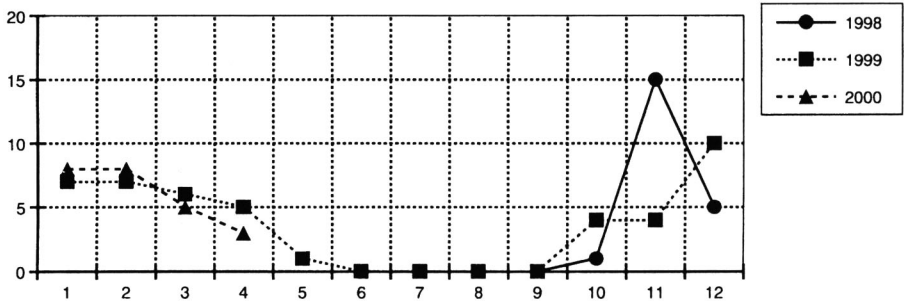
26 クロツグミ *Turdus cardis* Temminck



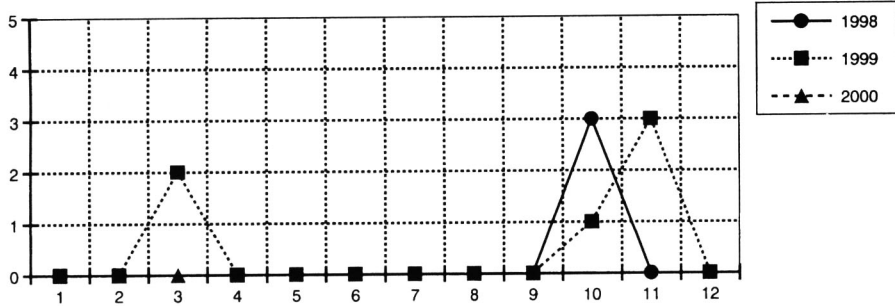
27 アカハラ *Turdus chrysolaus* Temminck



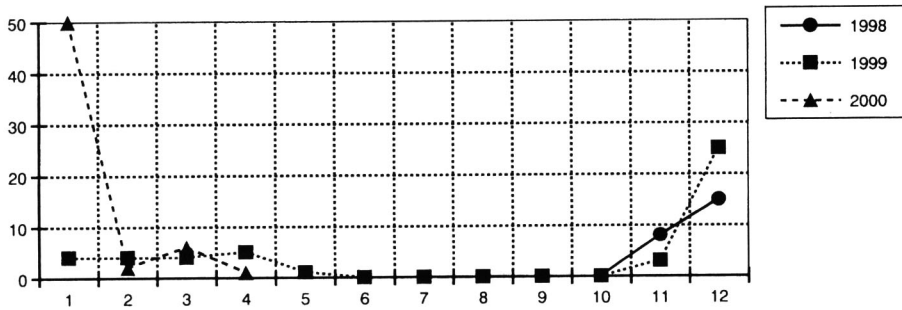
28 シロハラ *Turdus pallidus* Gmelin



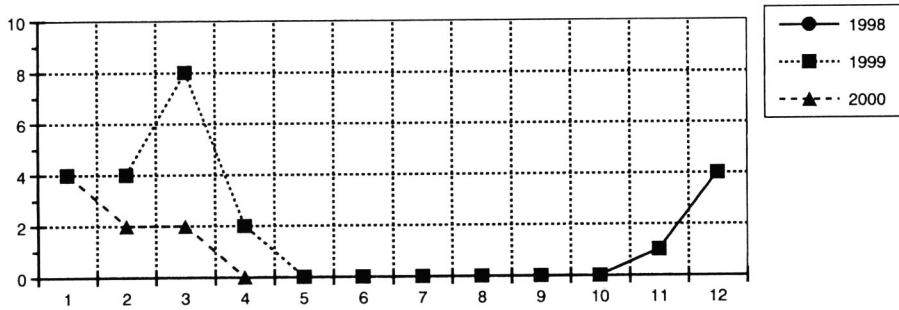
29 マミチャジナイ *Turdus obscurus* Gmelin



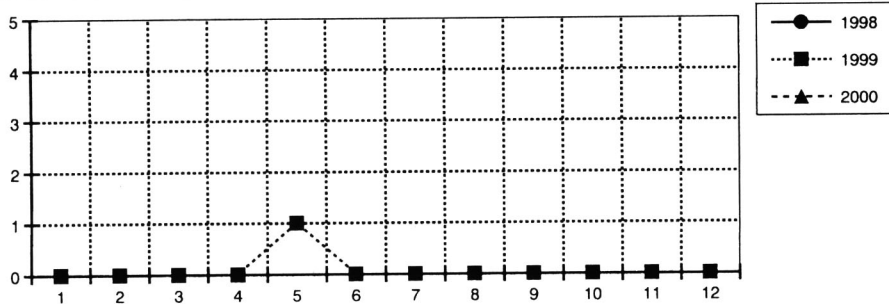
30 ツグミ *Turdus naumanni* Temminck



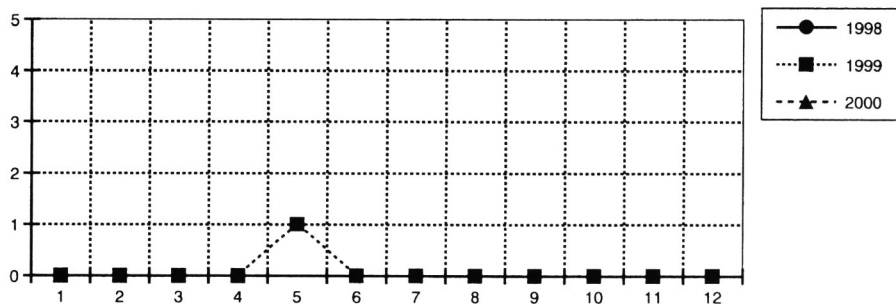
31 ウグイス *Cettia diphone* (Kittlitz)



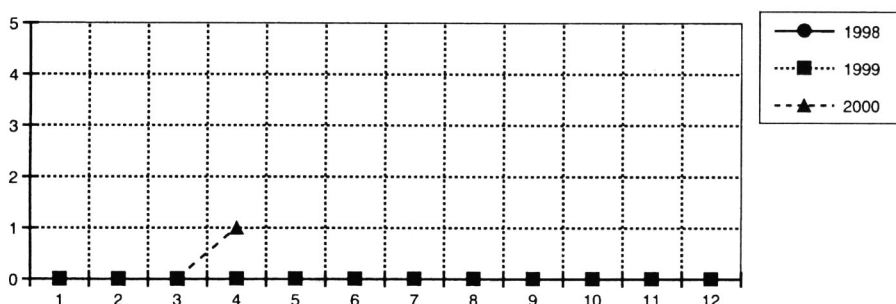
32 オオヨシキリ *Acorephalus arundinaceus* (Linnaeus)



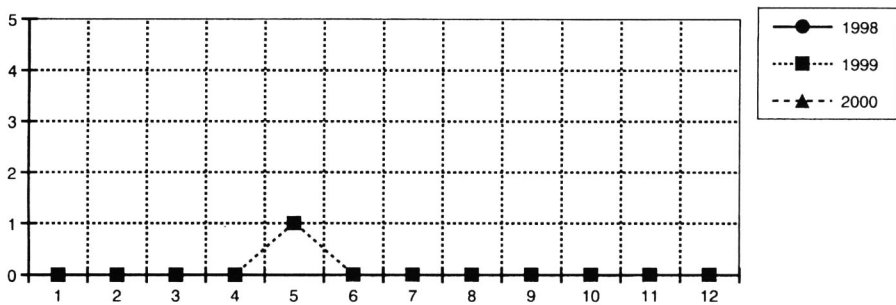
33 メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* (Blasius)



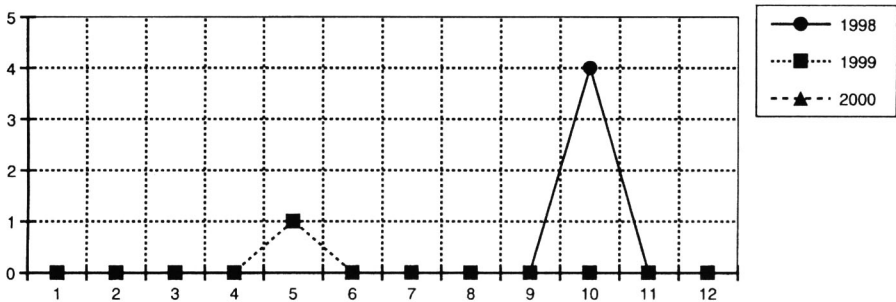
34 エゾムシクイ *Phylloscopus borealoides* Portenko



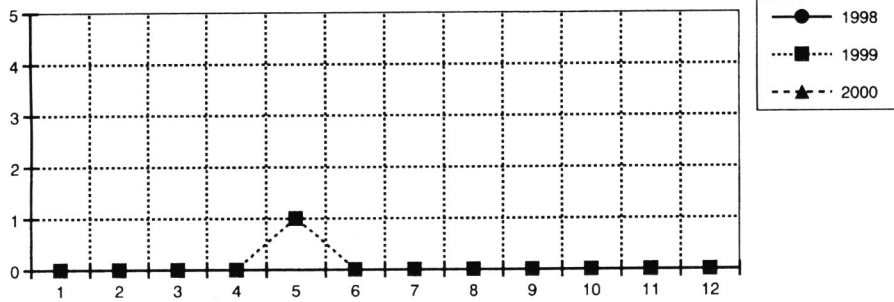
35 センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus* (Temminck & Schlegel)



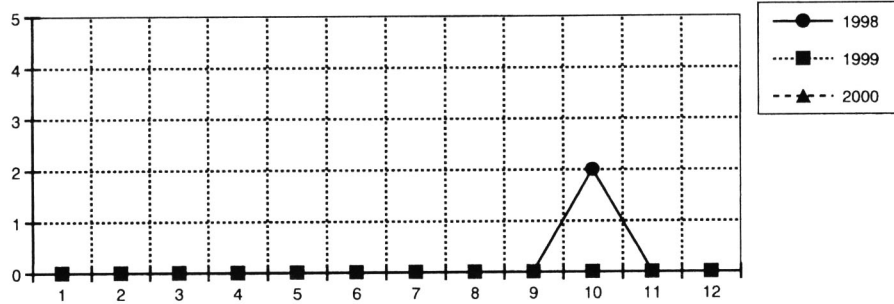
36 キビタキ *Ficedula narcissina* (Temminck)



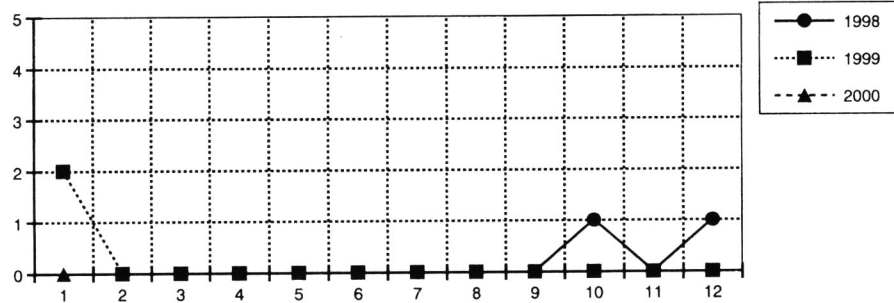
37 オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* (Temminck)



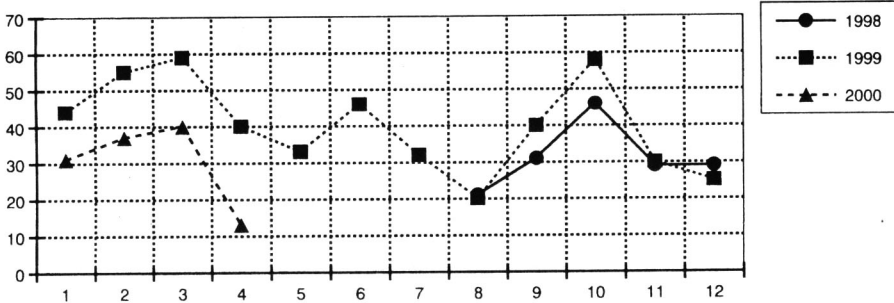
38 エゾビタキ *Muscicapa griseisticta* (Swinhoe)



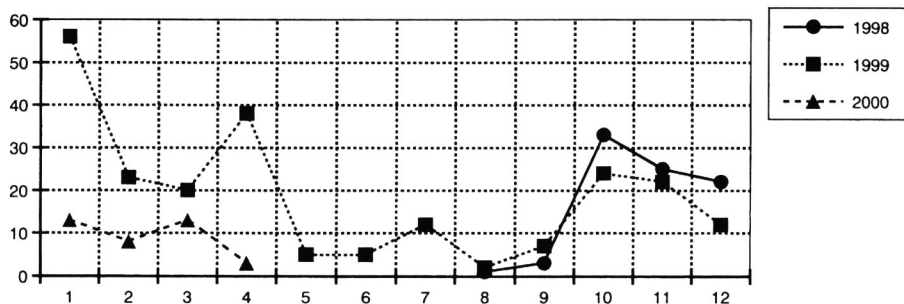
39 ヤマガラ *Parus varius* Temminck & Schlegel



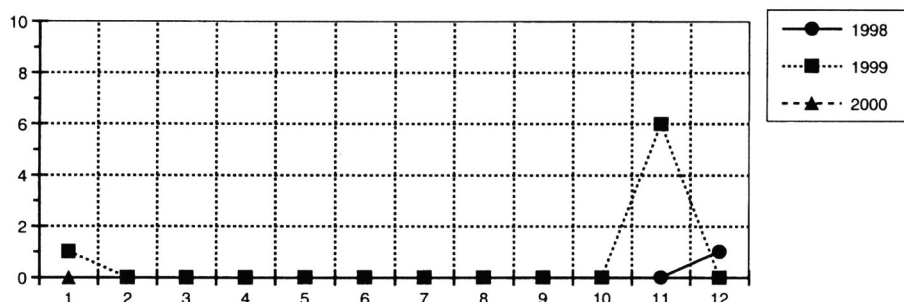
40 シジュウカラ *Parus major* Linnaeus



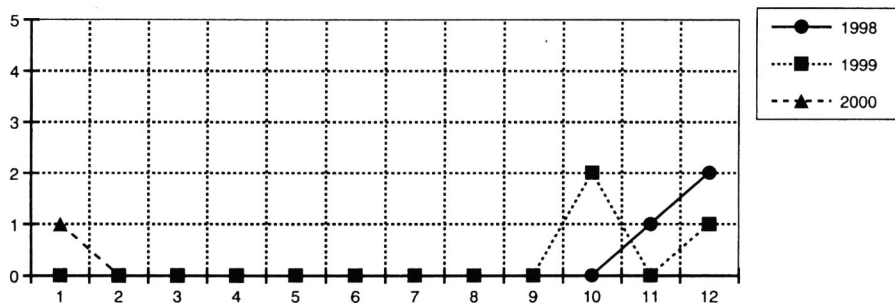
41 メジロ *Zosterops japonicus* Temminck & Schlegel



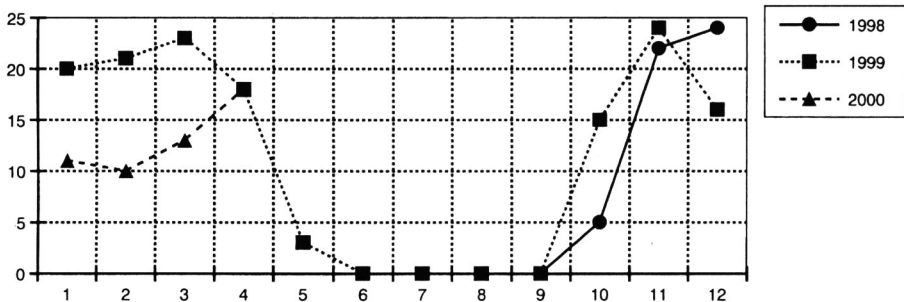
42 ホオジロ *Emberiza cioides* Brandt



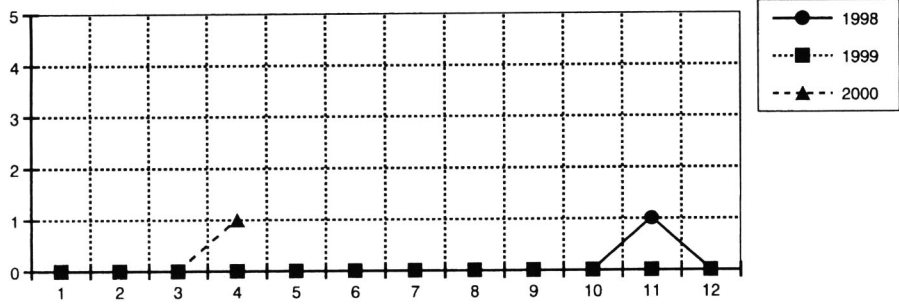
43 カシラダカ *Emberiza rustica* Pallas



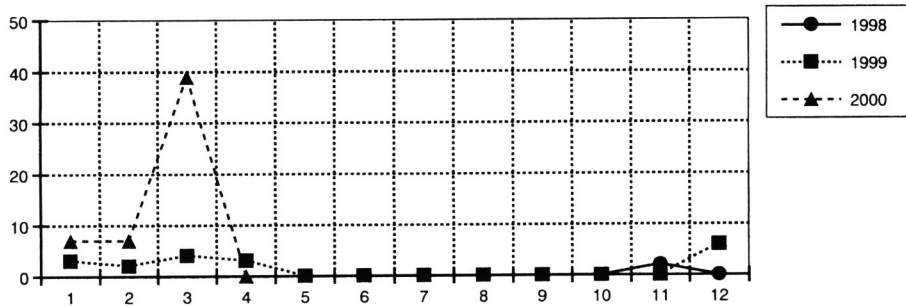
44 アオジ *Emberiza spodocephala* Pallas



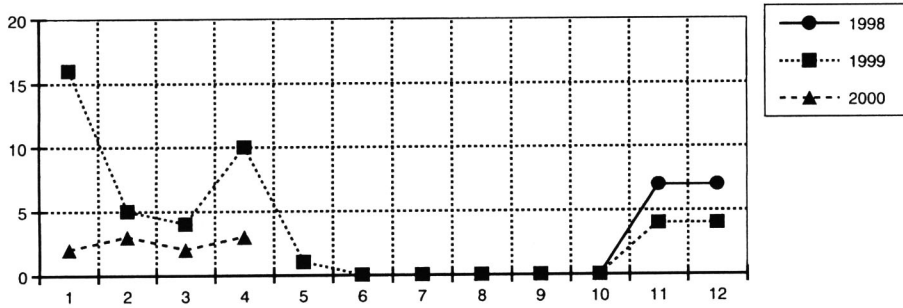
45 クロジ *Emberiza variabilis* Temminck



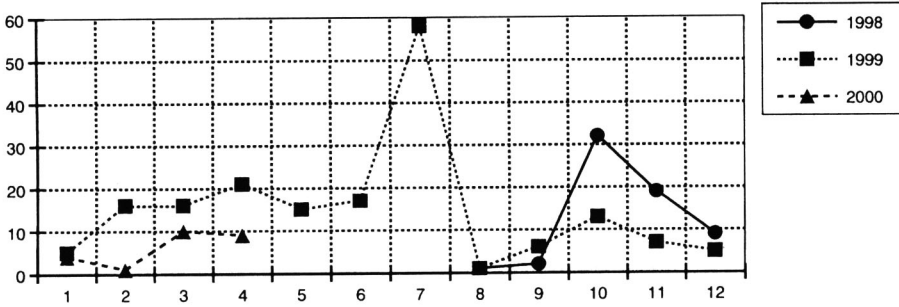
46 カワラヒワ *Carduelis sinica* (Linnaeus)



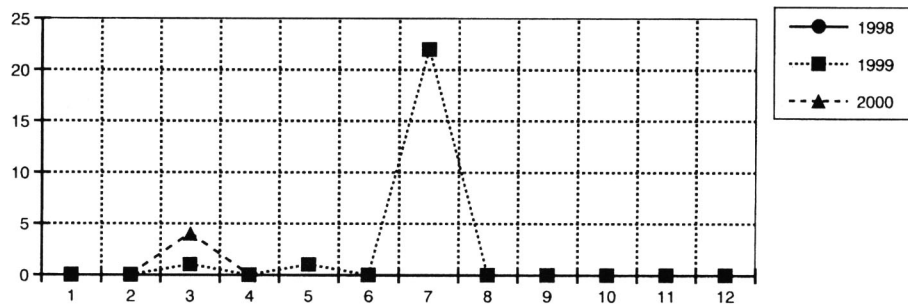
47 シメ *Coccothraustes coccothraustes* (Linnaeus)



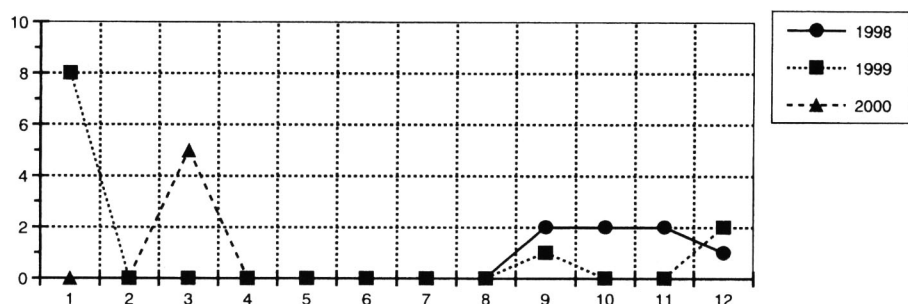
48 スズメ *Passer montanus* (Linnaeus)



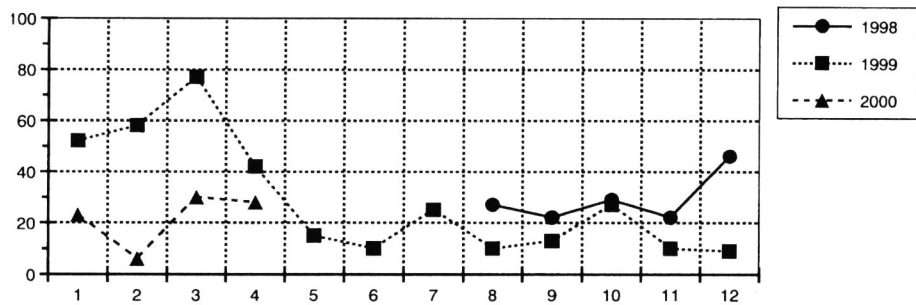
49 ムクドリ *Sturnus cineraceus* Temminck



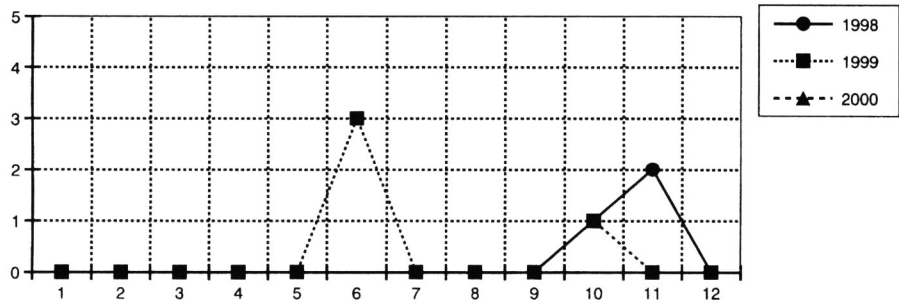
50 オナガ *Cyanopica cyana* (Pallas)

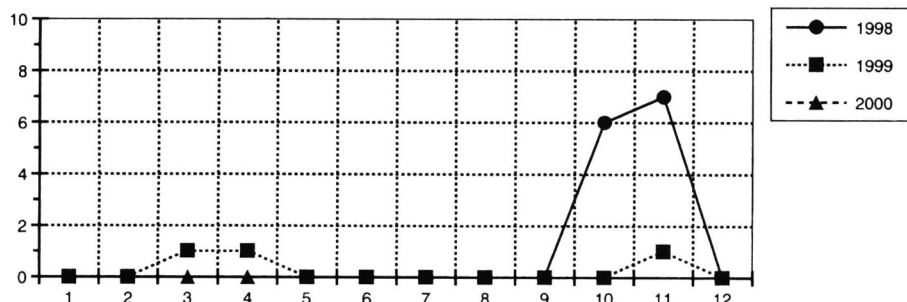


51 ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* Wagler



52 カワラバト (ドバト) *Colimba livia* Gmelin



53 ホンセイインコ *Psittacula krameri* (Scopoli)

なお亜種に関して鳥類の場合、ワカケホンセイインコのように亜種まで分かっているものもあるが、メボソムシクイやカワラヒワ、アオジなどのように種レベルでしか識別できていないものが多い。そこでここでは和名及び学名は種レベルで統一し扱うことにした。

引用文献

- 千羽晋示. 1969. 自然教育園の鳥類群集について. 自然教育園報告, (1): 1-13.
- 千羽晋示. 1978. 自然教育園の鳥類について. 自然教育園報告, (8): 75-106.
- 千羽晋示・坂元直樹. 1981. 自然教育園の鳥類について 新たに記録された鳥類などの追加. 自然教育園報告, (12): 121-123.
- 千羽晋示・坂元直樹. 1985. 自然教育園の鳥類の記録 (1982~1984). 自然教育園報告, (16): 75-82.
- 千羽晋示・坂元直樹. 1989. 自然教育園の鳥類の記録 (1985~1988). 自然教育園報告, (20): 15-19.
- 千羽晋示・坂元直樹. 1992. 自然教育園の鳥類の記録 (1988~1991). 自然教育園報告, (23): 1-9.
- 西海功・柿澤亮三・紀宮清子・森岡弘之. 2000. 皇居の鳥類相 (1996年4月-2000年3月). 国立科学博物館専報, (35): 7-28.
- 日本鳥学会. 2000. 日本鳥類目録 改訂第6版.

Summary

In the Institute for Nature Study, 88 kinds of birds were recorded by this investigation. In this report, in order to investigate seasonal variation of birds inside the Institute for Nature Study, record of the census which recorded the number of individuals was analyzed. Here, it takes up about the 53 kinds.

The monthly number of appearance kinds had many in winter, few tendencies in summer. The number of kinds increases spring and especially autumn with movement of migratory birds. It is only staying inside the Institute for Nature Study for 1 or 2 days, and these migratory birds stop being immediately.